

「不正防止」目次

1章 不正防止のためのコーポレート・ガバナンス

1 コーポレート・ガバナンスとは？

コーポレート・ガバナンスとは？

コンプライアンスと倫理

効果的なコーポレート・ガバナンスとは？

不正防止とコーポレート・ガバナンス

2 取締役会の機能

取締役会

取締役の独立性

取締役会委員会

監査委員会

監査役会

監査委員会

監査等委員会

監査役等と監査人のコミュニケーション

報酬委員会

指名委員会

3 経営者の機能

最高経営責任者（CEO）

最高財務責任者（CFO）

役員報酬と報酬委員会

倫理的行動の奨励

経営者の行動規範

4 企業トップの姿勢

経営者の姿勢（Tone at the Top）

中間管理職の意向（Mood in the Middle）

経営者からのプレッシャー

企業倫理綱領

5 内部監査の機能

内部監査機能

6 外部監査の機能

外部監査機能

7 内部通報制度

内部通報者

ホットライン

8 内部通報の褒賞と不正に対する処罰

褒賞

処罰

「不正防止」目次

(1章 不正防止のためのコーポレート・ガバナンス)

9 ITガバナンス

ITガバナンスに関する考察

10 ソーシャルメディアのコーポレート・ガバナンス

ソーシャルメディア方針

11 不正防止の企業文化の構築

不正防止文化の構築

2章 不正防止・発見統制の評価と検証

1 不正対応統制を評価する

不正対応統制を評価する理由と頻度

コーポレート・ガバナンスの重要性

経営環境の変化と新たなリスク

統制は仕様どおりに機能しているか？

2 統制環境

内部統制

COSO内部統制統合フレームワーク

統制環境

事業体レベル統制

プロセスレベル統制

内部統制に内在する制約

3 リスクの評価と統制の評価

不正リスク

不正リスク管理

不正リスクの評価～効果的なアクション～

リスクと統制の調整

組織のリスクと統制

4 包括的評価モデルを使用した統制の評価

包括的評価モデルとは

内部統制の評価に使用するCAM基準

内部統制システムの評価

統制の費用対効果の評価

CAMを利用した統制評価技法

5 統制自己評価の実行

統制自己査定（CSA）とは？

統制自己評価の利点

6 統制自己評価（CSA）の実施

CSAプログラムの9つの導入ステップ

「不正防止」目次

(2章 不正防止・発見統制の評価と検証)

7 統制不備の特定と対処

統制不備

内部統制の運用の失敗

統制環境不備の指標

根本原因の分析 (RCA)

8 評価結果の伝達

結果の報告

9 継続的な保証の取得

継続的保証とは？

継続的保証フレームワーク

継続的な監視

3章 不正リスク評価

1 不正リスクとは

不正リスクとは

固有リスクと残余リスク

2 不正リスク評価とは

不正リスク評価とは？

不正リスク評価を実施する理由

① コミュニケーションと意識の向上

② 不正に対して最も脆弱なアクティビティの特定

③ 最も高い不正リスクを引き起こす人物は誰か

④ 不正リスクを軽減するための計画の策定

⑤ リスクの高い領域の評価

⑥ 内部統制の評価

⑦ 規制および職業専門家の基準の遵守

3 不正のリスク評価を適切に行うには

不正のリスク評価を適切に行うには？

① 経営者と監査人の協働

② 適切なスポンサーの存在

③ 独立性と客観性

④ 業務に関する十分な実務知識

⑤ 組織のあらゆるレベルの人々へのアクセス

⑥ 組織内の人々の信頼

⑦ 不正実行犯のように考える能力

⑧ 評価を存続させ適切に保つメカニズム

4 効果的な不正リスク評価の開発

効果的な不正リスク評価の策定に向けた検討

「不正防止」目次

(3章 不正リスク評価)

5 不正リスク評価のための会社の準備

利用する最適な評価手法の決定

不正リスク評価の質問

従業員の不正リスク認識

6 不正リスク評価フレームワークの例1

フレームワークの選択

不正リスク評価フレームワークの例1~手続~

不正を犯す動機・プレッシャーと機会

経営者による手続制の無効化リスク

不正リスクの母集団

不正の発生確率を評価する

不正の組織に与える影響の重要性を評価する

防止統制と発見統制

特定された統制の有効性と効率性の評価

7 不正リスク評価フレームワークの例2

不正リスク評価フレームワークの例2~2つの要素~

防止・発見指数

リーダーシップ リスク プロファイル

8 特定された不正リスクへの対応

許容可能なリスクレベルの設定と優先順位付け

リスクがもたらす起こり得るコストの見積もり

9 不正リスク評価の結果の報告

不正リスク評価の結果報告

10 不正リスク評価によるインパクト（貢献）

不正リスク評価によるインパクト（貢献）

11 不正リスクの管理と監視

継続的な監視と不正リスク管理

不正リスク評価と監査プロセス

4章 不正リスク管理

1 不正リスク管理とは？

全社的リスクマネジメント（ERM）

世界の企業が直面しているリスクランキング

2 リスク管理フレームワーク

リスク管理体制

COSOフレームワークの変遷

「不正防止」目次

(4章 不正リスク管理)

3 COSOと不正リスク管理

不正リスク管理ガイド

原則1

不正リスクガバナンス／要求内容

主なステークホルダーの役割

倫理的な企業文化の必要性

強い企業文化とはどのようなものか？

企業と従業員の倫理観と価値観

不正関連方針

企業倫理方針

行動規範

不正防止指針

内部告発に関する方針

コミットメントと確認

効果的な不正防止環境を妨げる潜在的な障害

原則1に関連する特徴

原則2

不正リスク評価

原則2に関連する特徴

原則3

不正統制活動

統制活動

不正意識の確保／不正意識プログラム

不正意識研修

倫理的ジレンマへの対応

原則3に関連する特徴

原則4

不正操作と是正措置／情報と伝達

報告手続

調査プロセス

改善行動

原則4に関連する特徴

原則5

不正リスク管理の監視活動／モニタリング活動

モニタリング

原則5に関連する特徴

4 不正リスク管理プログラムの作成手順

効果的な不正リスク管理プログラムの10ステップ

「不正防止」 目次

(4章 不正リスク管理)

ステップ1：プログラム目標の定義

ステップ2：リスクアペタイト（選考度）の定義

ステップ3：過去の不正事案の調査

ステップ4：不正リスクの評価

ステップ5：プログラムの構成要素の設計

ステップ6：プログラムの構成要素の実装

ステップ7：期待を伝える

ステップ8：コンプライアンスの確保

ステップ9：違反の識別と調査

ステップ10：プログラムの有効性測定/評価/報告

5章 犯罪行動の理論

1 犯罪理論とは

犯罪理論の概要

2 アノミー理論

アノミー理論の概要

アノミー理論のフレームワーク

アノミー理論における4分類

日本社会におけるアノミー理論

3 文化的接触理論

分化的接触理論の概要

分化的接触理論のメカニズム

日本社会における文化的接触理論

分化的同一化理論

ホワイトカラー犯罪（white color crime）

4 絆理論（bond theory）

絆理論（bond theory）の概要

絆理論における4つの絆

絆理論における「愛着」

絆理論における「投資」

絆理論における「巻き込み」

絆理論における「規範意識」

5 漂流理論（drift theory）

漂流理論（drift theory）の概要

漂流理論と中和の技術～中和の技術（Techniques of neutralization）

6 ラベリング理論

ラベリング理論の概要

ラベリングにおける予言の自己成就

ラベリング理論の帰結

「不正防止」 目次

(5章 犯罪行動の理論)

7 セルフコントロール理論

セルフコントロール理論の概要